

	<h1>日台稲門会</h1> <p>NEWS LETTER 第10号</p>	<p>平成 18 年(2006 年) 民国 95 年</p> <p>9 月 1 日 発行</p> <p>発行 日台稲門会事務局 編集 白鳥・石川・小野間・齋藤</p>
---	--	---

不順な天候が続きますが、皆様におかれましてはくれぐれも健康にご留意くださいますよう。さて、日台稲門会ニュースレター 2006 年夏号をお届けします。

第 10 回日台稲門会定期総会・第 7 回日台稲門交流の集い 盛大に開催される

(4月22日(土)15:00～総会及び記念講演会:日本記者クラブ・大ホール
日台交流の集い:レストラン・アラスカ)

平成 18 年 4 月 22 日(土) 15:00 より日本プレスセンタービルにて、日台稲門会平成 18 年度の定期総会が開催された。なお、当会は本年 10 周年を迎えた。

第一部の定期総会では、前年度の活動報告、決算報告、今年度の活動計画案、予算案の 4 つの案件が審議されたが、全て原案通り決議された。

第二部の記念講演会では、早稲田大学野球部第 16 代監督の野村 徹氏より「野球部の役割(6 年間の監督生活の中で感じた事)」と題してご講演を頂いた。早稲田野球部の精神・闘う姿勢の定着、意識・食事・生活改革等多くの改革を断行し、早稲田野球部の黄金期を如何にして作られたかの苦労話と 21 世紀早稲田大学野球部が目指す目的と内容を監督の野村に対する熱い心で語られた。野球部史上初の 10 戦全勝、4 連覇という偉業達成の秘密を垣間見た気がした。

第三部の「日台稲門交流の集い」では、白鳥会長の開会挨拶に続き、羅 福全・亜東関係協会会長、江夏 健一・早稲田大学副総長、金 美齡・台湾總統府国策顧問、西川 潤・早稲田大学台湾研究所々長、謝 南強・台湾校友会々長の来賓挨拶と祝辞が行なわれた。次いで早稲田大学 125 周年記念事業として江夏副総長に寄付金の目録が贈呈され、許 世楷・台北駐日経済文化代表処代表のご発声により全員で乾杯し開宴となった。野村監督、羅会長、許代表、金国策顧問等を中心に多くの輪ができて、また各テーブルで親しく交換が続くなか、丸山幹事の司会で地区稲門会代表、台湾校友会総幹事、漫画家・弘兼 憲史氏、留学生、その他会員・会友が次々と登壇しスピーチを披露した。

終宴も近づき未来のチャンピオンと期待されるボクシング部の留学生・徐 睿宏君のリードにより早稲田大学校歌を全員で合唱した。最後は上野

晃司幹事による恒例の三本締めによる中締めの後、加藤 博副会長の閉会挨拶をもって閉会した。総勢 93 名が参加し、大盛会であった。(事務局 小野間記)

出席者(順不同・敬称略) 「来賓」: 羅 福全、許 世楷、李 世昌、陳 銘俊、江夏 健一、桜井 直子、謝 南強、陳 光敏、金 美齡、河合 一郎、手塚 善雄、北村 友雄、加藤 英雄、野村 徹 「留学生」: 徐 睿宏、陳 聖媛、陳 秋瑜、陳 娟、韓、蘇 柏 「校友」: 高浜 秀人、奥 典之、榊原 靖之、西川 芳子、生島ヒロシ、華岡 正泰、手塚 康博、早速 完、縫村 義則、塩田 典男、田原 亜彦、武石 武夫、立野 良夫、井上 秀雄、白石 武博、等々力英美、武田 紀念男、平野 学、大亀 浩介、生田理恵子、梶岡 和夫、下中 幸雄、丹野 秀昭、丹野和佳子、平野 政則、大木 勝男、小田 恭平、奥山 雅洋、能登 八郎、山下 正行、酒井 健爾、川村 淳一、坂本 周三、高橋 悦己、杉山 卓、熊本ちづる、弘兼 憲史、真壁 伸幸、真壁 直子、藤原 慶子 「会員・会友」: 浅井 利明、五十嵐 亨、石川 公弘、井村 晃也、上野 晃司、易 錦銓、大嶋 武、大山 高明、小野間恒夫、加藤 博、神田 正治、木村 滋、黒田 正信、江 正殷、越谷 重友、小林 重雄、近藤良三郎、齋藤 晃、荘司 真恵、白鳥 和夫、誉 清輝、寺田 修、西川 潤、林田 重剛、萩原 伸一、藤井 素介、眞鍋 藤正、丸山 弘子、村野 賢哉、吉本 正明、渡邊 光治、一色 徹、スヴェトラナ・ヴァシリューク



台湾早慶ゴルフコンペ参加報告

神田 正治（昭和45年理工学部卒）

開催日：2006年6月3日（土） *第30回を迎えるそうです。（年2回の開催）

開催場所：名門、台湾ゴルフクラブ（老淡水）

参加者：早稲田OB30名・慶応義塾OB24名（計54名）

競技方法：団体戦は各校上位10名のグロス・スコア・トータルで勝敗を決する。また、個人戦はダブル・ペリア方式で順位を計算し、表彰する。

試合結果：団体戦は慶応が7打差で勝利しました（これで早稲田は8連敗を喫し、不名誉な結果に終わりました）。個人戦は慶応の林 華明さんが優勝されました。

HP検索：台北稲門会のHPを開いて頂ければ、当日の詳細な個人別成績や画像がご覧になれます。

<http://www.waseda.org.tw/>

参加報告：台湾サイドより、「何としても連敗から脱したいので旧早慶ゴルフ参加者にも戦力の応援をお願いしたい」との要請がありました。これを受け、日台稲門会からは、白鳥会長は所用のため参加を断念されましたが、小野間さん、市川さん、小生（神田）の3名が応援参加することとなりました。

例年、端午節（今年は5月31日）を過ぎると本格的な夏がやって来るはずなのですが、渡台してみると、台北近辺はどんよりとした曇天続きで、雨の降らない日はない（天天下雨）といった天候でした。前日、練習ラウンドを予定していたのですが、大雨で流れてしまいました。ただ、悪天候にもかかわらず早稲田の士気は大いに盛り上がり、各方面から多くの応援メッセージを頂きました。旧日台所属、現台北駐在の羽原女史からも熱い応援のメールが届いておりました。

試合当日、心配していた雨には祟られず、むしろ晴れ間がみえる絶好のコンディションとなりました。参加者数でもWはKを圧倒し、雪辱は間違いのないとの感を強くしました。アウト、インに分かれそれぞれ早慶混合のパーティーがスタートして行き、小生も最初のティーインググラウンドに立った時は本当に緊張いたしました。早慶共に奮

戦。ナイスショットには満足の笑みをかみ殺し、ミスショットには内心の悔しさを抑え平静を装い、・・・。

ラウンド終了後、シャワールームではW優勢が囁かれ、Kも口数は少ないものの劣勢を覚悟していた様子でした。ところが、成績発表パーティーの席上でスコアの集計結果が判明すると、あに図らんや、何と大差での敗北。Wは90台前半のスコアの方がもう何人か足りなかったようです。残念な結果に終わりましたが、美味の料理に舌鼓を打ちながら、早・慶、和気藹々と歓談しあい、最後には互いにエールを交換した後、パーティーは閉会となりました。

台北稲門会高橋会長の音頭により、後刻、林森北路のとあるクラブで有志参加の二次会が開かれましたが、小姐も接待に戸惑うほどの、意気消沈の集まりとなってしまいました。次回は11月第1土曜日に開催されるそうですが、必勝を期すためには若手に一層奮起してもらい、10位以内にどんどん入ってもらわないのではないかと、この意見もありました。小生も是非とも再度参加させて頂きチームに貢献すべく微力を尽くしたいと考えている次第です。

どなたか我と思わん方、次回の参加大歓迎です。

第41回ホームカミングデー 開催のお知らせ（2006稲門祭も同日開催）

【開催日】平成18年10月22日（日）【時間】10:30~11:45（開場9:30）【会場】記念会堂

招待される節目の校友

昭和32年卒（50年目） 昭和37年卒（45年目） 昭和47年卒（35年目） 昭和57年卒

（25年目） 卒業年が異なっても同期入学

詳しくは <http://www.waseda.jp/alumni/tomonsai/index.htm> をご覧ください

会員動向

新入会の方々からお便りを頂きましたのでご紹介します。

千禧年(2000年)4月に帰国してからも度々台北を訪問しています。一番の目的はやはり美味しい食べ物です。菜脯蛋、担仔麵、牛肉麵、台湾香腸・・・これらは必ず食して帰ります。それに夏は水果。4年間住んでいた大安路の馴染みの果物屋に立ち寄ります。「いつ食べるの?だったらこれ」そう、食べ物に対するきめ細かさ。木瓜、リンゴマンゴ、これらを考えるだけでまた行きたくくなります。稲門会での交流は公私とも、私の台湾生活を支えてくれました。一つひとつの出来事を振り返り懐かしむとともに、あらためて感謝の気持ちが湧き上がっ

てきます。そうだ。ゴルフ早慶戦はどうなっているんだろう。赴任時の3勝7敗から8勝8敗に漕ぎついた「ワセダ黄金の時代?」の一員。本当に気分良かった。

下中 幸雄(昭和51年商学部卒)

プロフィール: 駐台歴4年(1996年3月~2000年3月)、台湾藤澤薬品に出向、藤澤薬品は2005年4月に山之内製薬と合併し、アステラス製薬となる。現在、アステラス製薬つくば研究センター勤務。

日台稲門会の皆さんへ

この度、日台稲門会に入会しました、萩原と申します。台北に4年間駐在し、昨年6月に帰任しました。

百貨店の開店準備で赴任したのですが、開店を間際に控え、残念ながら諸般の事情で開店を断念することになってしまいました。

その間、合併先の企業、取引先の方々そして何よりも従業員の皆さんには、大変お世話になったにも拘らず、事業を断念したことにより、結果として大変ご迷惑をお掛けすることになりました。

私も今年で満56歳になりましたが、台北で受け

た様々なご厚情を今後、何らかの形で報いられたらと想い入会しました。

初めて中正空港に降りた時は、空気の悪い所だなと言うのが、正直、第一印象でした。しかし、住み始めて台湾人の優しい心情にたびたび触れ、第二の故郷と想うようになりました。

又、滞在中、玉山登山をはじめ色々旅行をしましたが、日本のような観光地化した派手さはないものの、素朴で美しい景観も忘れられない思い出です。

どうぞ宜しくお願いいたします。

萩原 伸一(昭和48年 第一法学部卒)

高等学院出身の早稲田大好き人間で、各種稲門会のお誘いがあれば必ず入会しており、今般、地元である松戸稲門会の幹事長を仰せつかりました。

日台稲門会という名前は「早稲田学報」での総会記事等で存じており、以前から気になっておりましたが、実は台湾にまだ行ったことがない私が入れる筈がない、と思込んでおりました。しかし、この度、お世話になっております行政書士稲門会の大嶋武先生のご紹介により入会させていただきました。

かつて、早稲田の友人が台湾に駐在しており、そこへ転がり込むということで計画が煮詰まっておりました。しかし、その矢先、急遽自分の結婚が決まり、早々に子供も生まれ、そのうち友人も帰国してしまい、断念して以来、心残りが続いております。

李登輝氏に代表されるように、「日本人以上に日本人らしい」「古き良き日本が残っている」といわ

れる台湾に、私は憧れを抱いております。良い温泉もあると聞きますし、いつかは家族で訪台したいと望んでおります。今のような親日「国家」でありつづけてほしい・・・、と願ってやみません。

微力ながら、稲門という御縁で親日・親台を深めるべく参加させて戴きたいと思っておりますので、今後とも、御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

浅井 利明(昭和59年政治経済学部卒、
有投資評価 不動産鑑定士)



会合報告

法学博士・林 秀雄先生講演会 & 懇親会が行なわれました

先般ご案内の通り、去る8月28日午後6時から大隈会館の301・302号室を借り切り、台湾国立政治大学法律系教授・林秀雄先生をお招きして講演会が行なわれました。演題は「台湾における妾の法的地位」。「妾」、日本ではほとんど死語となってしまった言葉（、それどころか差別用語ではないか）とっていたのですが、講演後は出席者から真剣な質問が続いて止まるところを知らず、意外にホットな話題であったようです。流石日台稲門会は、人生経験豊富な大人の集まりであると改めて認識した次第。

講演会後は林先生を囲んでの暑気払いを兼ねた懇親会、噂のホワイトナイルビールで口開けし、上野幹事の超弩級の無形文化財的国宝の手締め（当日の出来は最高で、益々磨きがかかってきました）を以ってお開きとなり、講演のテーマも相俟って一同喜色満面の裡の散会となりました。（齋藤記）

講師 林 秀雄先生のプロフィール

学 歴：輔仁大学法学士（1975）、日本明治大学法学修士・博士（1983）

現 職：国立政治大学法律系教授（前政治大学法学院院長）台湾の身分法と国際私法の代表的学者としてご活躍

日本との関わり：明治大学より法学博士授与、東京大学法学部客員研究員



* 8月2日から1ヶ月間早大比較法研究所の訪問学者としてご滞在

出席者（五十音順、敬称略）：石川公弘、市川 智、一色 徹、上野晃司、易 錦銓、大山高明、小野間恒夫、加藤 博、神田正治、木村 滋、栗山威郎、黒田正信、江 正殷、小林重雄、齋藤 晃、坂



井俊一、佐藤 喬、白鳥和夫、関口恒雄、西脇久夫、林田重剛、藤井素介、丸山弘子、村上克男、柳田凌子（木村さん同伴）林 秀雄（講師）徐 睿宏（留学生）*以上27名

*講演の内容につきましては、次号ニュースレターに掲載する予定です

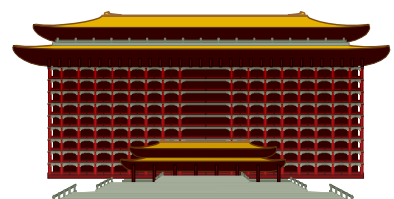
会合予告

早稲田大学台湾校友会総会

日 期：平成18年11月25日（星期六）18：00～

會 場：台北）圓山大飯店10樓 四川料理「松柏廳」

<http://www.grand-hotel.org/newsite/html/c/cindex.htm>



児玉神社100年祭に参加して

幹事長・石川 公弘

今年は児玉源太郎大將が、明治39(1906)年7月23日に没してから、ちょうど100年となる節目の年です。児玉源太郎をご祭神として祀る江ノ島の児玉神社では、7月23日、その100年祭が盛大に行われました。

児玉源太郎の名を最も高めたのは、総参謀長として、日露戦争を見事勝利に導いたことですが、その一方、台湾総督を9年間にわたって務め、後藤新平などを登用して、台湾の近代化を促進しました。江ノ島は、児玉源太郎がこよなく愛したゆかりの地です。

先の大戦中、8,400名の台湾少年工なる人たちが、神奈川県高座郡(今の大和市や座間市)にあった高座海軍工廠で、戦闘機を製造していました。彼らの楽しみは、休日に江ノ島へ行き、つば焼きを食べること、児玉神社に参拝すること、故郷に続く

海を見ることでした。

海を見ながら、島崎藤村の「椰子の実」を口ずさんで、泣いたという話も聞きました。

敗戦により、8,400名の台湾少年工の人たちは、志半ばで台湾へ帰りました。そして、幾多の試練に遭いながら、逞しく生き抜きました。彼らはその技術で、台湾の工業化に貢献しただけでなく、李登輝さんの目指す台湾民主化に、その尖兵として活躍しました。

100年祭のメインイベントは、李登輝さんの書かれた扁額「児玉神社」の除幕でしたが、そのとき私は、李登輝さんを「建国の父」と仰ぐ彼らの誇らしげな顔が、次々と浮かんできました。そして、日本と台湾が、強い絆で結ばれていることを感じたのです。



会長報告

第6回 早稲田大学台湾研究所運営委員会 出席報告

(4月21日(金) 早稲田・リーガロイヤルホテル)

出席者は、羅 福全会長、許 世楷代表、西川 潤所長、謝 南強委員、李 世昌委員、北村 友雄委員、白鳥 和夫委員、江 正殷事務局担当。

概要は次のとおり。

1. 共同研究プロジェクト、台湾関連講座の開設、シンポジウム、交流事業、研究成果の出版「東アジアの市民社会と民主化」などについて実施状況の詳細報告がなされた。
2. 以下の新規研究プロジェクトについて実施概要が提案された。

日台関係の歴史、現状、将来展望

代表者 西川 潤所長、蕭 新煌(中央研究院)

2006年から2015年の10年間のグローバル化下の東アジア情勢の進展との関連で日本、台湾交流の歴史、現状分析を踏まえつつ両者にとっての課題、可能な進展方向を明らかにする。

日台間市民社会交流助成事業

台湾のNPO(国際協力、人権、環境、女性、消費者など)に対して年間2名の日本NPOへの研修、インターンシップを目的とした滞在を助成する。

台湾元日本兵に関する研究と資料の整理

代表者 小島 晋治・東京大学名誉教授、松永 正義・一橋大学教授、陳 千武(台湾詩人)、劉 峰松・台湾文献館館長

台湾における台湾人元兵士に関する研究状況を日本に紹介する。

イ. 本件に関する台湾学会の分科会セッションもしくはシンポジウムの開催。

ロ. 陳千武「活著回来」の翻訳を出版する。

ハ. 「台湾元日本兵に関する研究と資料」と仮題して分科会成果及び台湾で発掘された口述歴史の翻訳を出版する。

3. その他

石田 浩委員ご逝去に伴う委員交代について報告。

「日本における台湾研究」学術シンポジウム共催。(9月8日 於台北)について報告。

武智基金記念奨学金の設置について報告。

台湾研究所の今後(2007年以降)について意見交換が行われた。

）断交後の日台“懸け橋”馬 樹禮・元駐日代表が逝去 葬儀に関係者続々

日本と台湾との断交後、亜東関係協会（現在の台北駐日経済文化代表処）会長（駐日代表）を断交翌年の73年から85年まで12年間務めた馬樹禮氏が、7月19日午後6時過ぎ、肺炎のため入院治療中だった台北市の和平病院で逝去した。享年98。

馬樹禮氏は駐日代表をはじめ国民党秘書長、總統府資政などの要職を歴任し、最後は国民党中央評議委員会主席団主席の職にあった。

葬儀は8月21日に台北市内で営まれ、馬英九・中国国民党主席のほか同党長老が参列した。

日本からは故佐藤栄作元首相の二男、佐藤信二元衆院議員、日華議員懇談会の亀井久興副会長が駆けつけ、遺影に手を合わせた。棺は中華民国旗と国民党旗で覆われ、情報畑から同党秘書長まで勤め上げた馬樹禮氏の冥福を祈った。

馬樹禮氏：1909年中国江蘇省生れ。明治大学中退、フィリピンのセントトーマス大学で学んだ。主な経歴は、立法委員（1948 - 1990）中国広播公司董事長（1972 - 1985）国民党中央委員会秘書長（幹事長 1985 - 1987）中国電視公司董事長（1987 - 1990）總統府資政（顧問 1990 - 2000）。

）台湾研究所行事予定

台湾研究所では、2006年9月～2007年3月まで、以下の活動を予定しております。つきましては、会員の皆様方多数のご来場をお待ちしております。連絡先は以下の通りです。

連絡先：江正殷 (xxchiang@waseda.jp)

（1）シンポジウム

「台湾映画シンポジウム・上映会」

11月1日（水） 10:00～18:00
於）早稲田大学学生会館多目的ホール

（2）講演会

「在台湾日本人から見た日台関係」 岩永 康久先生

10月4日（水） 10:40～12:10
於）早稲田大学西早稲田キャンパス14号館403教室

「台湾少年工と日本」 野口 毅先生

10月18日（水） 10:40～12:10
於）早稲田大学西早稲田キャンパス14号館403教室

）大相撲台湾巡業が開催されました

大相撲台湾巡業が去る8月19日、20日、台北ドーム（約1万人収容）で開催された。大相撲台湾巡業は明治41（1906）年から昭和11（1936）年4月まで度々行われていたが、戦後は初めて。また海外巡業は13年振りとあって注目が集まった。今回参加した幕内力士は、東横綱・朝青龍をはじめ大関・白鵬、千代大海、敢闘賞の東前頭十枚目・玉乃島、技能賞の西前頭十二枚目・玉春日ら42名で関係者を含めると総勢97名。若の里と武雄山、白露山は怪我のため参加しなかったが、秋場所で入幕確実な琉鵬と弓取りを務める皇牙の十両2人が加わった。主催は東風衛視、超級圓頂事業、主管企業は株式会社A T & C、特別協賛は日本アジア航空。

北の湖・日本相撲協会理事長や人気力士一行は17日、航空機2便に分かれて台湾入りした。滞在先の「シェラトン台北」に着くと現地テレビ局10社のテレビカメラが待ちかまえ、力士たちはロビーに

出るときにテレビカメラと女子アナたちに囲まれて質問攻め。

同日夜のホテルでの記者会見で、朝青龍は「熱い応援をもらい、うれしかった。いい相撲を見せませう」と笑顔で力強く宣言。

18日は北の湖理事長、朝青龍、大関陣が台北市内にある總統府を表敬訪問し陳水扁總統と会見。陳總統は「相撲は日本の国技。悠久な歴史だけじゃなく、武士道の精神が如実に表れる日本文化の最もいい部分を象徴している。」と台湾巡業を歓迎した。北の湖理事長は一行を代表し、「熱情的な歓迎を受けてうれしい。日本古来の伝統ある相撲を台湾の皆さんに披露できて大変光栄です。」と述べた。朝青龍は力士を代表し「皆さんが非常に温かく、素晴らしいところだと思った。気迫のある相撲を取りたい」と挨拶した。朝青龍が土俵入りで締める綱のミニチュアを陳總統に手渡し、總統からは台湾製の陶器が贈られた。

力士はこの後、508メートル世界一の高さを誇る国際商業センター「台北101」を訪れ、89階にある展望台から市内の壮観な眺めを一望。同センターには蘇貞昌行政院長も駆けつけ、「今回の巡業をきっかけに台湾と日本の交流を深めたい」と歓迎。また歴史や文化に触れた国立故宮博物院では、幕内のモンゴル人力士7人を代表してチンギス・ハンが描かれた掛け軸をプレゼントされた朝青龍は、「感謝します」と笑顔浮かべた。

19日、初日を迎えた台北ドーム。詰めかけたほぼ満員のファンが、力士団の本番さながらの取組に大歓声を上げた。42力士によるトーナメント戦は朝青龍が3回戦で本場所では未対戦の把瑠都を寄り切ると、準決勝で千代大海を下し投げ、決勝では白鵬を力強く上手投げで退けて優勝した。

取組前には、股割りなど力士の基本動作を紹介。土佐ノ海と安美錦は台湾東部・花蓮県から来たまわし姿の児童9人との子ども相撲で沸かせた。

優勝した朝青龍は金色のまわしで登場。「台湾のファンは温かい。日本にも負けない応援で力が上がった。」と笑顔浮かべた。敗れた白鵬も「盛り上がったって良かった」と満足顔だった。

千秋楽のトーナメント戦は栃東が勝ち、総合優勝決定戦は前日優勝の朝青龍が制した。

千秋楽は準優勝の千代大海が盛り上げた。「父方の祖父が台湾在住」と地元テレビのインタビューで明かしたことで、場内での千代大海への声援が一気に増えた。台湾内の新聞各紙は、前日の初日の模様を好意的に取り上げ、総合優勝した朝青龍の取組場面や、土俵入りなどを写真で大きく掲載。台湾の主要紙は、全力士の取組結果まで表にして載せた。

大島巡業部長（元大関・旭国）は「思ったより反響が大きかった。日本への友好ムードを実感できた」と戦後初の台湾巡業を総括した。力士ら一行は21日に帰国。（報道各紙を編集しました）

§ 台湾関連新刊書籍紹介 §

「大丈夫か、日台関係 「台湾大使」の本音録」内田 勝久【著】産経新聞出版 平成18年5月初版（本体価：¥1,800）

著者・内田勝久氏は2002～2005年の財団法人交流協会台北事務所長。

李登輝・前総統の三田祭講演問題、辜振甫氏の早稲田大学名誉博士号の贈呈、森・前総理を囲んでの台湾稲門会の開催、WHO加盟問題、李・前総統の訪日実現、ビザ免除、叙勲など、いずれも当会が直接、間接に関与し、日台交流の大きなエポックとなった案件の解決に尽力された駐台・日本大使の回顧録。これらの諸案件の実現にはさぞかし、関係者の大変なご尽力があったであろうと

憶測していたが、本書によってその裏話を知ることができた。改めて関係者のご尽力に感謝したい。

それにつけても痛感するのは、日台関係は日本自身の問題であり、大使の「大丈夫か日台関係は」、「大丈夫か日本は」と問いかけていると思えてならない。大使がAPEC広島大会の時の高級事務レベル会合の日本側代表であったことを知り、駐在していた当時の台湾の世論の激しさを改めて思い出した。（白鳥）

「日本人よ、自分の国に誇りを持ちなさい」黄 文雄【著】飛鳥新社（¥1,260）

著者のユニークな視点にはよく驚かされるが、副題は「世界モデルとしての日本」である。日本には、神話の時代から和の社会原理があり、これが世界モデルとしての日本の原点であるという。日本の天上界である高天原に万能の神はいない。徹底した分業である。

力の神、言霊の神、水の神、土の神などが、それぞれの役割を果たし、天照大神も様々な力を持ちながら、機織りもする。万能の神がいないと、

相互依存にならざるを得ない。これが日本社会の原理であり、日本の自然の原理である。

この相互依存の原理の下では、異郷の神も新しい力をもたらすものとして、土着の神に歓迎される。日本が外来文化を穏やかに受容する土台はここにある。お釈迦様も、日本の神の支柱になる。これこそ、混迷の世界に向けて、日本が準備する世界モデルだと著者は言う。他にも、随所にあらしい発見があるはずだ。（石川）

「李登輝実録 台湾民主化への蔣経国との対話」 李 登輝【著】中嶋 嶺雄【監訳】産経新聞出版・扶桑社平成 18 年 5 月初版（本体価：¥2,857）

原典は「見證臺灣 經國總統與我」（2004 年台湾国史館）

李前総統が当時の総統・ 經國に指名され副総統に就任した 1984 年 5 月から 総統が逝去する直前の 1988 年 1 月までの間の、 総統との対話を自身が克明に記録したメモ（ノート）をもとに、李前総統の回想の口述筆記を交え内容を整理したもの。 經國から薫陶を受けた 4 年間の実録である。

「李登輝闘争実録 - 台湾よ（李登輝執政告白實録）が、台湾人初の総統就任から陳水扁政権誕生による中国国民党主席辞任（2000 年）までの出来事を綴ったものであるのに対し、これは本人が発表した実際の談話記録である点がユニーク。富田メモとは異なり、信憑性に揺るぎがない。

その後総統時代を通じて李前総統が職務をまっとうできたのは無論ご自身の資質もあるだろうけ

れど、中国国民党成立時から既にあった中国人の固有の性格（利己主義）によるもの（実は一枚岩ではなかったということ）もあるだろう。 經國、沈昌煥、 彦士、 柏村、 俞國華、 林洋港、 吳伯雄、 李煥、 李履安、 緯國、 邱創煥、 孫運、 馬樹禮、そして宋美齡、外省人・本省人入り混じり多士済々ではあったが。

最後に、監訳者のあとがきにもあるが、李前総統の次の言葉を紹介する。

「中国社会の中では、ただ指導者 - （中略） - 自身の思想が変わってこそ、はじめて変化が可能となる。（中略）中国社会は容易には民主化しないし、経済上での進歩はもしかするとある種のムードをつくり出すことができるかもしれないが、こうしたムードは力となり、指導者に変化の意向を持たせることができるだろうか？いや、これはおそらく大変に困難だろう。（350 - 351 頁）」（齋藤）

行ってきました

日本で初めての「台湾物産館」が東京・笹塚にオープン

台湾の農産物や加工品などを一堂に集め紹介する日本初の「台湾物産館」が 7 月 25 日、笹塚にオープンしたというので早速行ってきました。

場所は京王線笹塚駅を下車し、甲州街道に出て向かい側。台湾情緒たっぷりのデコレーションで直ぐ分かります。

同物産館は、台湾の農産品を広く日本で紹介する目的で、行政院農業委員会（農水省に相当）の支援のもとに設立されたそうです。

訪れて先ず目につくのは野菜や果物、冷凍食品のケースで、台湾でよく食べた食材で溢れていま

した。他には紹興酒、台湾ビール等の酒類、烏龍茶、鉄観音茶等の茶葉類、漬物やお菓子も豊富。

惜しむらくは品数が少なく一商品一メーカーのように見えました。今後更に品揃えを充実されんことを希望します。

なお住所等は以下の通りです。

場 所 台湾物産館 笹塚本店
住 所 東京都渋谷区笹塚 2 - 14 - 15
ヴェルト笹塚ツインビル 1 階
TEL/FAX : 03-5304-7801

編集後記

日台稲門会ニューズレターは第 10 号を迎えました。これも偏に読者の声援の賜物と感謝申し上げます。

行事が多いためか、はたまた幹事が熱心なせい？今号も 8 頁とまたまた大部となり発行が遅れてしまいました。皆様、充分楽しんで頂けましたでしょうか。

台湾も、李登輝前総統夫妻の退任後三度目となると思われた日本訪問は体調不安から延期になったようですし、また 2 ヶ月後の 10 月 31 日に、予定より一年以上遅れましたが台湾新幹線の開業を迎えるなど、目が離せません。国連加入に向けた運動

Welcome Taiwan into the United Nations もこれからです。

台湾を応援しましょう。（齋藤）

